

よしこさん、れいこさんとけいこさんの

活動日誌

このコーナーは、食育などを通じた女性農業委員の活動を紹介します。



那須連山を背に周辺の風景が青々と緑一色となりさわやかな風を感じています。
女性農業委員として活動を始めてから早二年が過ぎようとしています。様々な研修を受講し、地域農業の実情・課題等を知り活動の重要性を改めて実感している今日この頃です。女性農業委員としての活動目的は、

農村現場における男女共同参画の実現、農業委員会業務の円滑な運用、地域農業の発展、食育・食農教育の推進等となっておりますが、私達三人は、子供達に農業の大切さを伝えるため、食を通しての食育教育に重点をおいての自主的な活動を行っています。

今回は、日々の主な活動内容を報告したいと思います。

○ 毎月の定期総会 毎回20件から30件の案件を審議します。

○ 定期的な研修会 他県の農業状況等の視察研修もあります。

○ 遊休農地の調査 現地調査を行い、農地の有効利用の促進を目的に農地パトロールを実施しています。

○ 広報紙「たがやす」の発行 取材・編集を定期的に行っています。

このほか、食を通して地域の人や子供達との交流会等、微力ながら女性の視点や発想を活かした活動に取り組んでいます。

さらに、県農業委員会ネットワーク機構等が主催する研修会に参加し、他の女性農業委員の活動状況の情報収集や意見交換を行い、私達の活動の参考となっています。

日々の活動の中で、女性の果たす役割の大きいことを実感し、女性が

公の立場で発言し、意見が反映されるよう努力しなければと改めて思っています。

今年度、農業委員会制度が改正され、女性農業委員の登用の促進がより求められます。新たな制度の下、多くの女性農業委員が参画できるよう、私達の活動が微力ながら役立てば良いかと願うものです。



編集後記

編集委員 松浦一雄

こんにちは。最後までご愛読ありがとうございます。

今、日本は景気の回復とともに、大きく変わろうとしています。安倍法制の成立、原子力発電所の再稼働、マイナンバー制の導入、TPPの大筋合意、農協改革、農業委員会制度改革等、農業も良い方向に進んでいるの分からない中、すでに動き出しております。

自然災害とともに何が起こるか分からない農業情勢ですが、どのように変わろうとも農業従事者と一丸となり守って行かなければならないと思っております。

既に田植えも一段落したところかなと思います。今年こそは自然災害も無く、天候にも恵まれ豊作だといですね。

編集委員長

編集委員

大島 芳子

高柳 文浩

大平 康市

松浦 一雄

摩庭 令子

池澤 敬子

全国農業新聞

全国農業新聞は、経営とくらしに役立つ農業総合専門誌です。

・ 毎週金曜日発行

・ 購読料：月700円【送料・税込】

【購読の申込みは、農業委員会まで】